



# 農大



アグリチャレンジ科の訓練の様子

原点はわくわく、

どきどき感

校長 爲計田 ひろみ

本校で農業を学んでいるのは学生だけではなくありません。現在、学生四十一名、農業を志す研修生十五名、昨年度から産業人材育成センター倉吉校から委託を受けて開設している公共職業訓練アグリチャレンジ科の訓練生二十三名が在籍しています。

—JUターナー等、他産業から農業へ転身する人、定年退職後に本格的に農業を始める人など就農への道筋は多様です。また、その形も、自家での就農に加えて、農業法人や大規模経営農家へ就職するなど多様です。これら多様なニーズに対応するため、昨年、就農を目指す社会人のコースの見直しを行い、先進農家に受け入れてもらって実践的に学ぶ研修と農業の基礎を学ぶ公共職業訓練を新たに始めました。

その道で成功する人、目標を達成することができる人は、わくわく・どきどきに導かれ、成功するまで粘り強く行動する人です。

学生・研修生、訓練生の皆が、わくわくしながら学び、挑戦を続け、それぞれ目指す農業の形を実現して欲しいと思います。

# 就農に向けて奮闘中!

昨年度、社会人向け研修制度を大きく改編しました。自営に必要な実践力を身に付ける研修として新設したのが「先進農家実践研修」です。これは、農家の方が「師匠」として自らの技術や経営ノウハウを研修生に直伝いただき、1年間の自営就農希望者向けプログラムで、年間3期開講しています（6月、10月、2月）。指導いただく農家の方だけでなく、市町村、農業委員会、農業改良普及所などの関係機関、JAや生産部を交えた支援チームが役割分担し、地域ぐるみで就農を支える体制のもと、研修を運営しているところです。

現在、3名の研修生が、それぞれの就農予定地にて本研修に取り組んでいます。ここでは、その奮闘ぶりや各地域での就農支援の動きを御紹介したいと思います。

## ▶ 1 <sup>やまねひろみ</sup>山根裕史 研修生 ..... (24歳、倉吉市在住)

山根研修生は、湯梨浜町羽合地区でブドウ栽培を開始するため、羽合ぶどう生産部指導員の植原証氏のもと、本年2月から研修を受講しています。

本校養成課程果樹コースを卒業後就職し、加工用ブドウの栽培に携わった山根研修生。生食用ブドウで就農する夢を叶えるため、本研修で一から栽培管理の実践を学ぶこととしました。

もともと非農家である山根研修生の自営に向けては、基盤の全てを確保する必要があり、特に、就農時から収益が上がるハウス付き成園の確保が、就農サポートの最大のポイントとなっていました。

生産部をあげての情報収集や役場の御支援のもと、就農地として約20aの成園（ピオーネ、シャインマスカット）をお借りできる目処が立ち、来年2月の営農開始に向けて、現在就農計画の作成を進めています。



写真右が本人

## ▶ 2 <sup>かわはらひでとも</sup>河原秀知 研修生 ..... (30歳、北栄町在住)



写真右が本人

河原研修生は、実家の基盤を活かして、町の特産品目（ねばりっこ、スイカ、中玉トマト）で自営していくことをめざし、県外よりUターンしました。本年2月から、北栄町西園にて長いも・ねばりっこ等を生産する山田敏広氏のもと本研修を受講しています。山田氏の娘婿である藤川優一氏にも、新規就農の先輩として様々なアドバイス、御指導をいただくことができる恵まれた環境です。

河原研修生の実家にはハウスがなく、初期投資を抑えてスイカ、ミニトマトの生産を開始するにあたり、ハウス付き農地の確保を求めていたところ、役場の調整により、実家近隣で当該農地の確保に至りました。就農計画作成・認定、機械導入等、関係機関のサポートにより一連の就農準備がスムーズに進み、11月から営農を開始しています。

## ▶ 3 <sup>ゆうがみしんいちろう</sup>勇上真一郎 研修生 ..... (30歳、鳥取市在住)

勇上研修生は、大阪府から母方の親戚のある鳥取市にUターンし、就農への1歩を踏み出しました。本年6月から9月まで、本校にて公共職業訓練「アグリチャレンジ科」を受講し、農業の基礎や農作業の基本技能を学んだ後、10月から農事組合法人ファームなかいいち（指導農家：前田房継氏）での先進農家実践研修をスタートしたばかりです。

研修のベースにあるのは、高齢化が進む法人の後継者を確保し育てたいという法人の強い意向です。10月3日には、地域の皆様の御厚意と熱意にあふれる開講式が執り行われました。勇上研修生が将来の法人運営を担う後継者として育ち定着できるよう、法人自体の経営支援をしっかり行っていくことも、関係機関の今後の重要な役割となります。



写真前列中央が本人

# 食プロ認定講座開催中

食プロとは「食の6次産業化プロデューサー」の愛称で、国家戦略・プロフェッショナル検定の一つであり、食の6次産業化を担う人材の育成、認定を目的としています。

6次産業化は、生産（1次産業）、加工（2次産業）、流通・販売・サービス（3次産業）の一体化や連携により地域の農林水産物を活用した加工品の開発、消費者への直接販売、レストランの展開などをするものですが、食プロはこの食分野で新たなビジネスを創出するための職能レベルを認定するものです。

食プロのプロレベルはレベル1からレベル6まであり、自身にあったレベルから取り組み、レベルアップすることができます。本校で行っている講座はレベル1からレベル3までの初期段階で、8月1日に始まり、12月26日までの間で15日間行われます。講座は各専門分野の講義だけでなく、市場や6次産業実践者等の視察なども行われ高校生11名を含む47名の皆さんが参加されています。



6段階のプロレベル



講義「6次産業化論」



鳥取協同青果（株）の視察



（有）田中農場の視察

# 農家等留学研修で 農家の皆様にお世話になりました

## ●平成28年度 農家等留学研修●

農家等留学研修は、先進農家や農業法人に2年生を派遣する取り組みです。高度な栽培技術や販売のノウハウ、地域とのふれ合いなど、農家生活の生の姿に接しながら、身をもって学びます。時期は7月から9月にかけて、期間は26日間です。

今年は21名の2年生のうち、9名が県外で研修し、近くは島根県、遠くは愛知県で学びました。残りの学生は県内での研修でしたが、農家に泊まり込んで生活を共にしながら研修した学生もいました。

農大での日頃の生活とは環境が大きく変わりますから、それなりの緊張もしたでしょうし、戸惑いもあったと思います。ですが、帰ってきた学生は、ずいぶん成長したように見えました。生活態度を含め、多くのことを学んだのでしょう。学生諸君、お疲れ様でした。そして受入農家の皆様、本当にありがとうございました。

### 果樹 コース

おくねりょう  
奥根涼

私は鳥取市河原町で主に二十世紀梨の栽培及び販売をしておられる「まえた農園」にお世話になりました。経営主は前田真也さんで、本校の卒業生です。

研修中は梨の収穫、選果、進物用の箱詰めが一日の主な作業でした。外観や形の悪い等が原因で、進物用として販売できない梨は、定期的に行われる大阪等での出張販売用とされます。そこではお客様との対面販売となるため、多少見た目が悪くても、直接説明することでお客様は納得して買っておられました。また、複数購入される場合値引きする等、個人販売の強みを十分に活かしておられました。私も出張販売に同行し、「購入していただく」ことの大変さを学びました。同時にお客様とのコミュニケーションが重要である事や、前田さんなりの陳列台の装飾、陳列方法等の工夫を学ぶ事ができました。

最後に、前田さんを始め、お世話になった御家族の皆様にご感謝いたします。



写真中央が本人

### 野菜 コース

ひらたてるまさ  
平田輝将

8月1日から8月26日まで鳥取県北栄町にある村岡ファームで研修を受けてきました。

村岡ファームでは根域環境制御による独自の栽培方法により糖度10度以上の非常に甘い中玉トマトの生産を実現されています。今回の研修では、トマトの整枝や誘引など栽培管理の作業や出荷調製作業だけでなく、様々な勉強会にも参加することができました。

村岡ファームでは今年農大を卒業した先輩が就職されており、私は先輩の真剣な姿に背中を押され、最終日まで研修をやりとげる事ができました。

研修期間中、村岡ファームの皆様からたくさんの事を教えていただきました。とても感謝しています。そして、今回の研修で学んだ事や体験したことを日々の実習だけではなく、今後の進路にむけても活かしていきたいと思います。



写真右が本人

## 花き コース

かわぐち あつ き  
川 口 淳 希

私は、愛知県豊川市でスプレーギクを栽培されている林泉さんのところで研修をしました。圃場の大きさや慣れない作業で戸惑いましたが、皆さんがとても温かく接して下さったおかげで、楽しく研修期間を過ごすことができました。

私は手先が器用ではないので、挿し芽の作業ではなかなか目標とする本数が出来なかったのですが、効率よく作業をする方法を教えていただき、研修の最後の方では目標とする本数の挿し芽をすることが出来ました。

研修期間中に体験したことは、私にとって貴重な財産となりました。この経験を今後にかけて活かして頑張ろうと思います。



## 作物 コース

ひの ゆう た  
樋 野 悠 太

私は、岩美町にある有限会社いわみ農産で研修を行いました。いわみ農産では、水稻や野菜の栽培を行っており、かき餅や味噌などの加工品も作っていました。

研修中は雨の日が多く、稲刈りがほとんど行えなかったため、野菜の収穫や調製の作業を主に行いました。農業大学校では作物コースに所属しており、普段はあまり野菜の収穫を行わないため、慣れるまでは苦戦しましたが、社員の方々の丁寧な指導のおかげで上手く収穫が出来るようになりました。

今回の研修で一番強く印象に残ったのは、規格外になった農産物をいかに工夫して販売するのかという考え方です。私は、今回の研修で学んだことを活かし今後も頑張っていきたいです。



## 畜産 コース

もり やま かな こ  
森 山 華奈子

私は、八頭町で酪農をされている中村牧場で研修をさせて頂きました。飼養頭数は、経産牛約90頭、育成牛約40頭と、大規模経営を行っておられます。また、地域の水田を有効利用（耕畜連携）して飼料用とうもろこしを収穫する等効率的な経営をしておられました。牛舎もフリーストール牛舎だったので、たくさんの頭数を飼養できる環境

にありました。搾乳施設は自作で、手作り感満載でした。しかし、1度に12頭搾れるので、搾乳の効率は非常によかったです。私は除糞、給餌、搾乳と、一通りの作業をさせて頂きました。その中で、蹄の管理を怠ると牛は蹄病を発症し、生産性に大きく影響が出ることを体験しました。この貴重な体験を今後にかけて活かしていきたいと思います。



# 平成29年度入学生を募集中です！

農業を目指してともに学びましょう、仲間たちが待っています。

農業に関心と意欲のある方、農家非農家を問いません。自営就農はもちろんのこと、最近では農業法人等への雇用就農など就農のチャンスが広がっています。また、いろいろな就農支援制度の活用も可能です。

## ● 募集人員

養成課程農業経営学科 30名（推薦入学者を含む）

※出願時に果樹・野菜・花き・作物・畜産からコースを選択

## ● 試験日程等

区分	一般入学前期 及び 社会人特別入学前期	一般入学後期 及び 社会人特別入学後期
受付期間	平成28年10月31日(月) ～11月18日(金)	平成29年 1月 4日(水) ～ 1月20日(金)
試験日時	平成28年12月 4日(日) 午前9時から	平成29年 2月 5日(日) 午前9時から
合格発表	平成28年12月 9日(金) 正午	平成29年 2月10日(金) 正午

## ● 資料請求・問合せ先

教育研修課 田中

(電話 0858-45-2411、ファクシミリ 0858-45-2412)

※願書等必要書類は、上記担当者に請求いただいても結構ですし、農業  
大学ホームページに掲載の学生募集要項をプリントして使用してい  
ただくことも可能です。(ホームページは、「鳥取農大」で検索。)



修 農 祭  
2016

開催のご案内

日時 11月23日(水)  
午前10時～午後1時

場所 農大校舎西側のスペース  
および格納庫周辺

\*駐車スペースを十分用意しております。  
当日の駐車は交通整理担当の学生の誘導に従ってください。

毎年恒例の修農祭を開催します。学生が作った農産物や加工品を販売します。

特に力自慢の学生によるつくたてのモチは、絶品です。

その他、抽選イベントや食べ物の屋台もあります。お問い合わせのうえ、多数おいでください。お待ちしております。

